付録一

翻刻『稲葉佳景無駄安留記』智頭郡

一、私に句点、濁点を加える。原本のところどころに濁点が加えられているがそれらとの区別はしない。
一、漢字・仮名とも、原則として現在通行の字体に統一する。
一、文字の大小の比率、配置は原本と異なる。
一、改行は原本のままとする。
一、絵とその題を四角の枠内に掲げる。配列は原本に従う。絵に書き加えられている説明のうちの主なものも枠内に記す。

智頭郡

【下六三裏】

智頭郡

用ヶ瀬　三角山　或は尖巾山共。

往古は天狗聚住、常に登山かたかりし由。凡谷をゆくこと五六町にして弁天祠あり。夫より舞堂。是より岬づたひして数丁登れば華門。又数丁登れば一ッの峯に到る。少平地にして、休処、施行場と云。是より山路険岨にして、九折を登れば社頭に到る。大岩覆ひて、或背き又向て、横に負、竪に抱れ、総て岩石を積たる頂に鎮座する神、峯鐸大権現と崇る。岩間老松生て、南の岩壁に倚て籠堂を建る外、寸地も平地なし。脚下は用ノ瀬駅、向は佐治郷、佐治・知頭両大川、九曲の流山谷に響き、峯々は波濤の如く、大江・佐治奥の山田は磴の如く、貌の山・人阪遙に霧こめ、鳥府・加路或は鷲峯、遠望絶景無双の高峯なり。鷲巣の峯は隣れり。佐治・屋住の方より望めば、尖巾の如く三角に峻る。

山々のかたをさすりて行雲も
　三角の山の腰をなづらむ

社頭に遊宴して

酌かはす酒のみすみの山の端を
　仰げよ下戸のもちのせの人

同　金屋山中仙足ヶ嶽鬼ヶ巌窟

村より登こと凡三十町、半途までは山路あり。それより荊棘いや生ひに繁りて、樹枝を攀て岩を踏て嶮岨を凌て登れば、大巌畳々として、上を覆ふて老樹鬱々たり。側に倒れし老杉あり。是神代杉とかや。大株なり。即大巌の下に方三四尺の三隅の穴あり。明松を灯して脚より入る。一段下りて這込めば、高さ三四尺計、幅二間程、中に磊多く、奥の方は少し低くなり、七八畳は敷べし。北窓とて僅に穴ありて、明り見る計。蝙蝠数多、灯に懼れて飛なり。口碑に往古三面鬼棲し由。

人喰ふ鬼がいはやのあたりとて
　木々のはごとに血の色ぞする

同　仙足ヶ嶽の峯に、女夫松とて古株あり。二樹連枝二枝あり。圍四尺余、一株は少し小くて高数丈、五葉なり。奇株也。俗階子（ハシゴ）松といひ伝ふる。

千世までもおなじ縁に足引や
　手をひく峯の妹とせのまつ

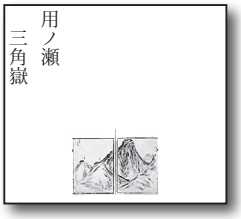
同　雞（トリ）ヶ平（ナル）山奥仙足谷不動尊

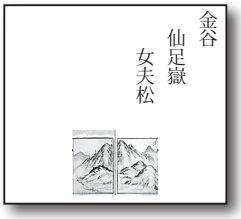
是樟（クヌギ）原雞ヶ平の村民尊信（シン）する霊仏（レイブツ）なり。幽谷仙足谷に安堵する。

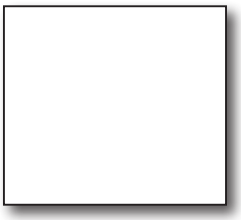
同　宮原山葦尾大明神　往古は本称ヲ葦原生と書ル。神代より此地に鎮座なり。葦原に生ると云古事なる由。老松鬱茂した
る社頭、平にして、大祠を建て、門に鐘を掲る。是宮原邑は、往古〻宮人の配流せられて、此に住居せし苗裔なり。産業を不知まゝに、木地挽をおぼえて生を養フ。今羽子板を作るは其遺業なるよし。殊に古き神社なり。

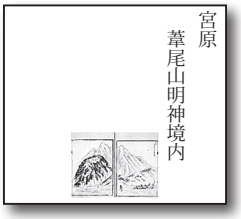
なにはなる短きふしは祈らまじ　米人

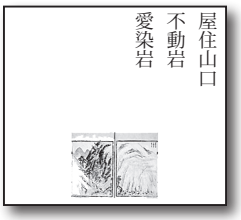
長き世まもれあし原の神











羽子板の若紫の色どりは

何れの宮のゆかりなるらむ

同　屋住谷　不動岩　多天門岩

是山口村の奥、屋住へ行〻谷口の峯上にて、大巌に彫刻せり。外向に不動尊、相対して毘沙門天を彫せり。山路絶たる嶮岨なり。何世、誰が作とも不詳。真下に籠堂、神門在。此処より上は礪として、見るも懼しき途なり。

不動岩夕日か、やぐ紅葉〻は

燃るほのうと見えてとふとし

同　藤太良明神禿倉

山口邑の下に小祠を祭る。是往古葦尾の社頭に狸七十五疋出て、夜毎に踊る。此後山の奥、於多喜ヶ平とて礪たる処在て、岩窟数多あるに棲せる者なり。里民藤太良の犬を迫懸て、是を噛殺させるよし。

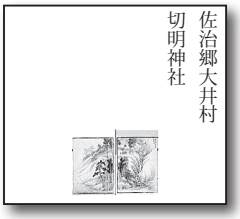
狸等が八畳敷をかぶせたら

こまるだらうかたうた良の宮

同　佐治郷大井邑熊野権現

村より三四丁奥の方なり。社頭の前、神門の左右、数多石の蓋石の傍立をして、一区に一躰宛の石仏を安ず。奥の院とて

数ヶ所、彼石の圍の石仏を安堵す。或は四躰仏とて、岩の前に石仏を安ず。其形、面の不具なるあり。又は首を殞けし仏躰もあり。何れの由なるにや。右の方の奥、大石の前なるを奥院と云。左の峯にも、大岩上に宝経塔あり。社頭にも宝経塔三区あり。亦社頭に大石碑在。正面の上に梵字彫たり。是因幡志の図するものならん。即佐治四郎尾張長経の古墳、切明大明神なり。山中所々の石仏は、代々の古墳ならん。又神門の右の方、荊棘の中に五輪両三在。此側に牧童牛を繋ば祟りある、草を刈者あれば忽ち病をうくるよし。



切明けし神の宮居も夏きては
若葉しげりて闇となりけり

同　加瀬木邑　薬師堂

本尊薬師如来は、行基菩薩の作仏（サク）にして、霊像（レイ）なり。藤森山福善寺と号す。元此山号寺号ともに村名なりしが、高麗（カウライ）洪水の時、大木流れ来りて、溪水に横はりて、水涙（サカノボリ）て民家ニ溢（アフ）れ、困窮（コンキウ）する。是より村号を加瀬木と改革（アラタメ）ル。薬師の霊験はかぞえがたし。又左の高所に牛頭天王の社美麗を尽せり。

御仏の瑠璃（ルリ）の光のなかりせば
人の病をいかゞはらさむ

同　笹ヶ桟道　数百歩の間、桟道を作る。山の方に礧々たる所は各杙を構えて防ぎたり。又赤松桟道とて、数十歩の所もあり。共に上方道なり。